



「ルポ」  
山の分校から  
阿蘇郡波野小学校犬子迫分校

阿蘇外輪山の東側にあたる波野高原……その幾重にも続く山ふところに、小さな一つの点として波野小学校犬子迫分校がある。標高六〇〇呎。冬は一面の白銀におおわれ、雪どけ道では唯一の交通機関である車もとだえてしまうのである。

生徒はみんなで四十三名。吉本吉明先生の担当が四・五・六年生で、本田とよか先生が一・二・三年生。つまり複式的学習指導である。

こぢんまりした教室ではストープの燃える音と先生の声だけが響いて、山に囲まれたこの谷間の分校はいかにも静かである。

字級別に机の向きもそれぞれ

違っていて、一つの授業に区切りをつける。先生は、次の字級の課題に移っていく。  
見事なこの転換は、さすが老練な先生ならではの感心したくなる早業である。

「みんなで不自由さを克服しよう」という合言葉をつくって、生徒と一緒に実践している吉本先生は、分校運営の隘路打撃についても真剣に考えている。

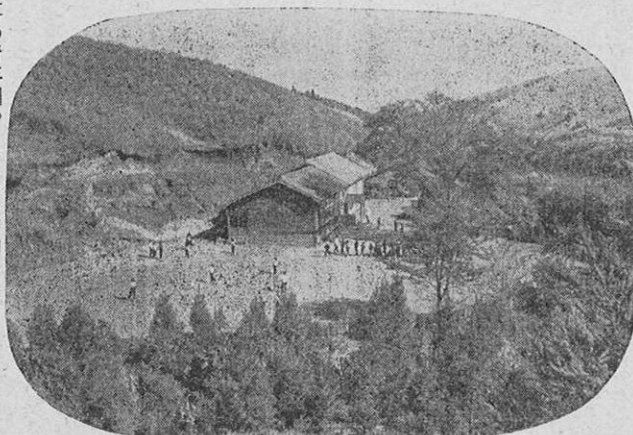
分校に限らず、どの学校でも教材や施設については熱心である。吉本先生は、分校の実態から考えて、簡単な理科実験施設は生徒と協同して作るようにしている。

この分校ではまだ電気がきて

いない。だから視覚教材が使えないのが残念だとコボしている。

だが、分校の子供たちの四季は、楽しさでいっぱいである。冬はストープのある教室で恒例の学芸会がある。この日は、部

写真・分校の全景



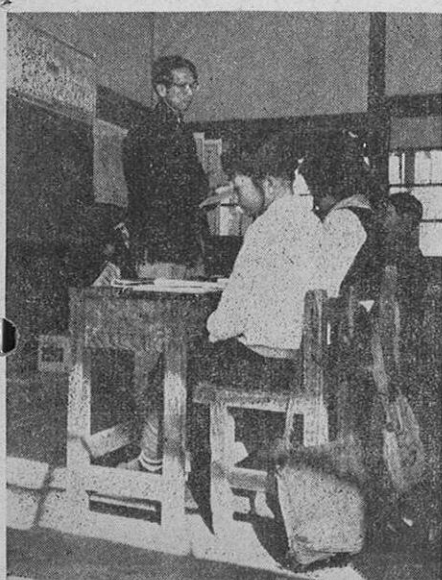
こうした分校の行事は、部落ぐるみの場ともなっている。青年層は特に熱心で、殆んど吉本先生をプランナーとして行事の企画が打出される。吉本先生は部落の相談役なのである。

分校を基地とした行事で注目されるのは、毎年三月と八月に行なわれる医大セツルメントの活動である。トラホームや寄生虫対策も年を追って充実し、女子大生や保母養成所生徒の医療、文化、

「子供は同一視してはいけません。学力だけでなく動く力を与えるべきだ」これは吉本先生のモットー。子供に何か自信をつけることが大切だという。朝の登校はみんな早い。何故なら、朝礼の前に球戯があるからである。楽しみで子供は一分でも早く登校する。やはり吉本先生はアイデアマンである。やがてこの閉ざされた分校にも春がくる。火山灰をふくんだ春風が山や谷を黄塵のように吹きまくるのである。

風

春の風、そよよ吹く  
時々風につけて  
石、砂が飛んでくる  
道いっぱいのはこり  
春風——  
もつと静かに吹いてくれ。  
(五年生本田恵美子さんの詩)



班とも、劇やのど自慢が賑やかに開かれる。春になると待望の遠足である。これも父兄同伴で熊本市まで日帰りコースで出かける。臨海学校の夏、修学旅行と運

砂鉄船もぞくぞく入港

活潑化する八代外港の利用

— 内港延長工事も3月に完成 —

外港

○：昨年十一月に完成した外港五千ト岸壁はその後舗装工事が続けられました。このほど完成しました。

この外港の利用申し込みは、各方面から続々と集まっています。すでに一月十五日には、有明製鉄熊本製造所で使用する砂鉄七百トを積んだ敷島丸(千二百ト)が、又翌十六日には五百五十トを積んだはりま丸、さらに二十三日にも五百五十トの砂鉄を積んだ常豊丸が、いずれも千葉から八代外港に入港しました。

その後も引きつづいて砂鉄輸送の船が入港することになっています。

○：十条製紙八代工場では、昨年から外港利用の計画を進めており、これまで三角港で陸揚げしていた沖繩のバルブ材を、今後はすべて八代外港で陸揚げす

ることにしました。

このため、県と十条製紙では一月十六日外港利用の打ち合わせを開き、早急の実施に移すことに決めました。

十条製紙では、沖繩から三角港へこれまでは月二回程度入港しているが、八代港を利用すれば、月四・五回にふやす方針という事です。

○：県では増加する外港利用にそなえて、外港背後の埋め立て地の道路整備も急いできました。このほど終了しました。

春の訪れとともに、外航船の入港はさらに増加することでしょう。

○：外港のふ頭は地元四工場の利用が決まっているほか、日本通運などからの利用申し込みも出ており、又県でも沖繩関係の各海運会社に、八代寄港の運動を行なっています。

○：運輸省の三十八年度予算をみると、外港関係は一億二千万円に内定しており、昨年よりも二〇％増加しています。

この予算は、現在工事中の外港防波堤の工事費と、いまの五千ト岸壁を一万ト岸壁に延長拡大する工事に使われます。なお、一万ト岸壁の工事と新しくつくられる五千ト岸壁の建設工事は、今年度から同時に着手されることになっています。

内港

○：県では、内港の混雑を緩和するため、外港工事として、深さ三層の物揚げ場の延長工事を急いでいますが、現在の三百呎が三月までに完成し、四百三十七呎に延長されます。さらに明年三月までには、百六十三呎を延長して、物揚げ場の総延

埋め立てはじめた「有明臨工」

建設いよいよ本格化

○：特望の有明臨海工業地帯造成のための埋め立て工事は、二月二十五日から始められた。去る十一月十日に起工式を挙げたが、これで工事も本格的に具体化したわけ。

○：三十七年度は長洲港内の一部を四・五層掘り下げて得られる十八万立方呎の土砂を埋め立てに使用する。

○：埋め立ては、土砂をポンプアップして、五本のパイプで埋め立て地に流し込むという方法をとっている。

○：これに要する経費は八千五百万円、三十七年度の産業関係施設整備事業費六千五百万円と起債二千万円が当てられる。○：四十五年までの埋め立て

長は六百呎にすることになっています。

○：こうして、ここ一、二年の間には、外港、内港とも見ちがえるばかりに整備され、八代臨海工業地帯の玄関として、大きな役割りを果たすものと期待されています。

(資料提供・八代市企画広報課)

計画は百三十五万三千平方呎(約四十一万坪)。三十八年度は、このうち長洲に隣接している十七万四千九百平方呎(約五万三千坪)を埋め立てる計画である。

新生活運動  
八優良地区を表彰  
実績発表大会終了

○：新生活運動協議会、県公民館連絡協議会、県教育委員会などが共催する第七回熊本県新生活運動実績発表大会は、二月二十二日午前九時半から、県立図書館ホールで開かれた。会場には県下各市町村から、関係者約一千名が詰めかけると

いう盛況。

大会では八代市河原町内囀託外田美良氏の「環境衛生が生んだ人の和について」など、五人から実績発表が行なわれたあと、アトラクションとして山鹿市民による「山鹿とろうろう踊り」や、自衛隊音楽隊のバンド演奏が披露された。

また、中央の新生活運動協議会事務局長安積得也氏の「新生活運動の考え方と進め方」と題する講演は、参加者に大きな感銘を与えた。

なお、この日はつぎの八地区が優良地区として表彰され、五つの小学校に、花いっぱい運動の奨励賞が、またボーイ・スカウトとガール・スカウトには感謝状が贈られた。

- ▽八代市江原町(環境衛生)
- ▽球磨郡湯前町下村(生活改善)
- ▽阿蘇郡西原村小野(結婚改善)
- ▽阿蘇郡西原村小野(結婚改善)
- ▽食生活改善)▽鹿本郡鹿鹿村下永野(研究グループの育成)
- ▽天草郡北町志岐中通(食生活改善、貯蓄推進)▽玉名郡三加和村上和仁(水稲集団計画栽培)
- ▽本渡市櫛字土町(蚊とハエのいない運動)▽阿蘇郡一の宮町西野(納税、貯蓄増進)
- ▽熊本市託麻原小学校▽山鹿市大道小学校▽菊池市竜門小学校
- ▽芦北郡芦北町佐敷小学校▽玉名市玉名町小学校
- ▽日本ボーイ・スカウト熊本県連盟▽ガール・スカウト日本連盟熊本県リーダーズクラブ